

# 報告

## 平成29年度 全国医師会勤務医部会連絡協議会 勤務医交流会

常任理事・医療関連事業部長 藤井 美穂

### 【全国医師会勤務医部会連絡協議会】

今年度の全国医師会勤務医部会連絡協議会は平成6年以来23年ぶりに当会が担当し、10月21日（土）に札幌グランドホテルにおいて「地域社会をつなぐ明日の医療を考えると一次世代を担う勤務医の未来創成のために」をメインテーマとして開催し、全国から409名の参加をいただいた。

開会式では、当会の勤務医部会：近藤部会長から開会の辞を述べ、日本医師会横倉会長、長瀬会長の挨拶後、高橋北海道知事ならびに秋元札幌市長から祝辞をいただいた。引き続き特別講演2題と、その間に本道の医療の現状を紹介したインタビュー動画を放映。次いで日本医師会勤務医委員会報告、次期担当医師会として長崎県医師会の蒔本会長より、次回は平成30年11月3日（土）にホテルニュー長崎で開催するとの報告があり、ランチョンセミナーで前半のプログラムを締め括った。



後半は、シンポジウム3題が行われた後、勤務医部会：鈴木（雅）部会員から提案した「ほっかいどう宣言」が満場一致で採択され、全プログラムを終了した。



### ほっかいどう宣言

今日のわが国の急速な人口減少は、著しい生産年齢人口の減少を伴いながら、少子高齢化が進展する人口構成の変化であり、労働生産性向上のための抜本的な「働き方改革」の重要性が強調されている。しかしながら、公益性、倫理性、専門性が強く求められる医師は、患者・社会に貢献する職業人として、高度な学識と技能をもち続けなければならない、その改革には慎重な議論が必要である。

社会全体でワークライフバランスの改善に向けた取組みが推進される中、医療界も例外ではなく、勤務医が医師としてのモチベーションを保ち、地域医療を発展させ、自らの人生も豊かにすべく、次のとおり宣言する。

- 一、 医師の働き方改革の議論が、地域医療を守り、地域格差是正につながる仕組みの構築の上になされることを求める。
- 一、 勤務医が多様な働き方を選択・実現できるよう、世代間ギャップを相互に理解し、就労環境を改善する。
- 一、 医師としての自らの職務を自覚し、いきがいを感じながら働き続けられる環境の整備に努める。

平成29年10月21日

全国医師会勤務医部会連絡協議会・北海道

協議会当日は、季節外れの大型台風21号の日本への接近により、ご来道された皆さまの交通手段への影響も心配されたが、一部影響を受けた参加者もおられたものの、大きな混乱もなく無事帰郷されたものと思われ、胸を撫で下ろした。

懇親会ではアトラクションとして、国の重要無形民俗文化財である、「アイヌの伝統舞踊」で楽しいひと時を迎えられたことを報告する。



最後に、ご参会の皆さま、また、インタビュー動画の撮影に当りご協力いただいた多くの方に、厚くお礼申し上げます。

※特別講演・シンポジウム等の詳細については、年度内に報告書を取りまとめ、当会ホームページ上に掲載する予定ですので、ご参照いただければ幸いです。

## 【勤務医交流会】

日本医師会からの要請により、全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催にあわせて、翌日の10月22日(日)午前10時より札幌グランドホテルにおいて、「勤務医交流会」を全国に先駆けて開催した。

当日は、主催した当会若手医師専門委員会の藤根美穂委員長が司会を務め、日本医師会の市川朝洋常任理事の話題提供の後、「医師の働き方を考える」をメインテーマにグループワーク形式で、各グループに与えられたテーマごとにグループに分かれて世代を超えた交流とディスカッションを行った。参加者は、勤務医・医学生・初期研修医・若手医師など93名であった。



### 話題提供：医師の働き方を考える

日本医師会 常任理事 市川 朝洋 先生

医師が健康を害することなく働ける環境を作ることが大切で、厚生労働省は「医師の働き方改革に関する検討会」を継続して開催し、応召義務、時間外労働規制の具体的な在り方や、勤務環境改善策、勤務実態について議論を行っている。

日本医師会においても、政府が進める働き方改革にあわせて、質の高い医療提供体制の維持と医師の健康確保を両立可能な制度を検討するため、「医師の働き方検討委員会」を設置した。医師会には勤務環境についての成果やノウハウがあることを活かし、国の検討の場で見解を伝えていく。

### ワークショップ

「勤務医の働き方」をメインテーマに、各グループに与えられたテーマに沿って、グループディスカッションを行った。

グループは、10人以内の世代混合とし、ファシリテーターと書記は、若手医師専門委員会委員と医学生・若手医師キャリア形成支援検討会のメンバーが担当した。グループ発表では、ディスカッションの内容をファシリテーターから発表した。



### グループ発表

グループ1「長時間労働の法対策」

①自己研鑽の時間やシフト制、低い診療報酬。

②勤務実態に即した法整備、医療現場における課題。

グループ2「多様な働き方と診療支援システム」

①医師の負担軽減策や勤務体制の多様な視点。

②医師の負担軽減策や補助できる職種の養成など。

グループ3「医療現場の世代間ギャップと管理職の意識」

指導や教育に対する評価や時間、指導医・研修医がお互いを理解することが、ニーズにあった教育につながる。

グループ4「キャリア設計とワークライフバランス」

キャリア形成と労働環境の改善、ライフイベントに対する考え方の変化による両立の悩み。

グループ5「医師として働くことの意味と現実」

楽しかった若手医師時代の経験談や、労働時間に制限のある人でも納得できる働き方、周囲から労働時間の上限を決められてしまうことに対する抵抗など。



最後に、今村日本医師会副会長より「本日の試みは大成功だと感じた。出席者の年齢差が上下で55歳もあり、活発な議論にならないのではないかと危惧していたが、杞憂だった。短時間での議論と集約を行えることに、改めて一人ひとりの医師としての能力の高さを感じた。本日出された意見の国への提言、広報が日本医師会の役目である。」と総括があり閉会した。

グループディスカッションの詳しい内容は、後日、報告書を作成する予定であるほか、次のURLにて簡単に紹介しているのでご参照いただきたい。

<http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/index.htm>